

派遣留学生帰国報告書

* 復学後の情報を入力してください

記入日	2月20日
所属学部	法政経学部
所属学科・専攻	法政経学科、政治学・政策学コース

1. 留学先について

留学先大学名	ウダヤナ大学					
留学先所属学部等	観光学部					
留学期間	出発日 8月20日	入学日 8月28日	修了日 12月15日	帰国日 12月18日		
住居	<input checked="" type="checkbox"/> 大学(紹介)の寮・アパート	<input type="checkbox"/> 民間アパート	<input type="checkbox"/> その他()			
	通学時間	15分			<input type="checkbox"/> On campus	
	通学方法	徒歩(時々バイクタクシー)				
	居室スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 個室	<input type="checkbox"/> () 人部屋	<input type="checkbox"/> その他()		
	共有スペース	<input type="checkbox"/> 完全個室	<input checked="" type="checkbox"/> キッチン	<input type="checkbox"/> トイレ	<input type="checkbox"/> バス	<input type="checkbox"/> リビング
食事	自炊 0 %	学食 5 %	外食 95 %	その他 () %		
保険	海外旅行保険(名称)	OSSMA付帯保険タイプB				
	派遣先大学指定の保険(名称)	なし				<input type="checkbox"/> 強制加入
	その他					
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)					
	成田	⇄	デンパサール(飛行機)	⇄		

2. 留学にかかった費用について

総費用	548,328	円	
出処			
自費	貯金 2万 円	アルバイト 円	その他 円
援助	両親 25万 円	家族・親戚 円	その他 円
奨学金	JASSO 28万 円	その他名称() 円	
その他	千葉大学助成金 円	その他() 円	

2-1. 財政管理の方法

渡航時	現金	2万	円	その他()	円
留学中	海外送金	<input checked="" type="checkbox"/>	キャッシング	その他()	

2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	全額現金で
住居にかかった費用	初月はPayPalを通して半額程、以降は一経つごとに現金で
その他	

2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)			62,830	円
海外旅行保険			61,210	円
OSSMA			13,176	円
査証・在留許可証	ルピア	1305000	10440+6120	円
住居	ルピア	8100000	64,800	円
食費			101,000	円
通学に要する交通費	ルピア	237200	1,898	円
教科書、教材費			0	円
その他大学に支払った経費			0	円
光熱費			0	円
その他 (バリエ内交通費)	ルピア	948800	7,590	円
その他 (英語研修)			81,216	円
その他 (遊び等)			40,000	円
その他 (予防接種)			98,048	円

3. 学業面

履修科目名	種類 ^{ex.} 正規、聴講	単位数	単位互換認定 申請の有無		
1 Money Management	正規	ECTS5	✓	有	無
2 Asian Economy	正規	ECTS5	✓	有	無
3 Tourism Marketing and sales	正規	ECTS5	✓	有	無
4 Tourism Product	正規	ECTS5	✓	有	無
5 Sustainability and Tourism	正規	ECTS5	✓	有	無
6 Indonesian Language	正規	ECTS5	✓	有	無
7				有	無
8				有	無
9				有	無
10				有	無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

私の場合は、ウダヤナ大学の登録システムに入っていなかったため、口頭でオフィスのスタッフに受けたいと伝えると受けることができた。GoBaliプログラムの出席はシステム上で管理していたが、そこに名前がないため、私は出席のサインを毎回書いていた。参考書は前年度の授業のスライドを印刷したものが配られた。

3-2. 授業内容、方法に関して

授業内容はインターネットで公開されているシラバスの通りだった。教授の話を聞くだけの講義はなく、プレゼンがない回でも意見を求められることが多かった。一度、二つのグループのプレゼンの発表を聞く会で、そのグループが両方もまだ準備ができてなく今はできないという、先生も私にできることはないと言って授業がなくなったことがあった。日本だと先生はプレゼンの代わりに自分で授業をすると思うので、驚いた。

3-3. 語学力について

私の語学力は、全然足りなかったと思う。GoBaliプログラムの生徒とコミュニケーションをとるのも多少難があった。もちろん英語がスムーズな先生もいたが、ヨーロッパの生徒に比べるとそれほどの先生もいたので、私にとっては授業内容を理解するのに得だった。GoBaliプログラムの生徒の語学力としては、英語は流暢だった。現地の生徒の英語も大学二年生の人が日本における社会人レベルの英語は話せていたと思う。

3-4. 図書館など学内施設について

デンパサールキャンパスとジンバランキャンパスがあり、デンパサールには数回しか言っていないのであまり言えないが、街のすぐ近くにあり行くたびに色んなセレモニーが行われていた。ジンバランキャンパスは建物は工事中のものもあったが、敷地は大きく、バイク移動が必要になるほどだった。図書館はジンバランキャンパスの恐らく文系用だと思うが、紹介されたところはとても小さく、10畳くらいの部屋に少し本が置いてあるだけだった。自習スペースがないため、一人で勉強する場所を確保するのが難しかった。

3-5. その他

4. 生活面

4-1. 住居について

ウダヤナ大学のスタッフに紹介されたアパートに住んだ。長期滞在者用のアパートで仕事のために使っている人やサーフィンをするためにやってきた人などがいた。スタッフは英語が話せる管理人2人の交代と、恐らく一つの大家族が住み込みで、洗濯、掃除、食堂、といったすべてのことをこなしていた。そのため、洗濯物を取りに行くときシャワー上がりで渡されたり、子どもたちは色んな言語に興味があるようだった。日本でいう宿的なものかもしれない。アパートの借り方は曖昧で口約束で十分だと思う。契約書的なものも渡されなく、チェックアウト時も鍵をスタッフに渡すだけだった。

4-2. 食生活について

ワルンという食堂がジンバラン地区にはたくさんあったが、英語が通じないところもあったり、安い代わりに量が少なかったり、衛生面で不安なところがあったりして行くところは限られた。ビーチの近くや繁華街にはチェーン店が多くあるので、時々そこにも行った。Go-Foodというバイクタクシーの会社が食べたいものを買って届けてくれるというサービスをしているので、それも時々使用した。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

インターネットはアパートには十分使えるWi-Fiが設置してあった。しかし毎月2回ほど急にパスワードが変わり、前もって教えてくれたらいいが変えてから伝えてくるのは不便だった。街中ではそれほどWi-Fiは通じなかったためWi-Fiのルーターを購入し使用した。それも山の中にある観光地や海沿いの観光地にはWi-Fiが通じなかった。携帯電話は日本から持ってきたものをそのまま使用した。電話はWhatsAppというアプリを、現地の人との会話に使用した。学内はWi-Fiが通じるところに限られおり、千葉大のeduroamの様なものも無かった。

4-4. 服装について

服装はそれほど気を遣わずに生活することができた。大学にサンダルと短パン姿はダメらしいが、そこまで考えなくても大丈夫だった。観光地ではヒンドゥー教のものであれば、入り口にヒンドゥー教の着物が無料貸し出されているのでいつも通りの格好でも大丈夫だった。

4-5. 健康管理について

健康管理については、狂犬病や脳炎にならないように犬に気をつけたり長袖を着て蚊に気をつけたりした。滞在中めばちこになってしまったので、コンタクトの管理について不十分だったと思う。道路も交通量が多いためチリやほこりがよく舞っていたので、バイクタクシーに乗るときも最初はヘルメットの透明部分を下げていなかったが、途中からはしっかり下げて目を守る用意心掛けた。

4-6. 保険、OSSMAの利用

めばちこの際に、病院へ行った時に使用した。帰国便が一日遅れたときは結果的に追加料金は払っていないので保険は利用していない。

4-7. 課外活動について

観光地ということもあり色々な観光地に行くよう心掛けた。現地の生徒にシークレットビーチを教えてもらったり、時々サッカーをしたりした。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

滞在していたアパートには色々な人がいて、ウダヤナ大学の学生もいたのでそこからその友達のイギリス人やドイツ人と遊んだり、食堂で会った人に話したりした。日本人会は登録のためお金がかかるし4か月程度しか滞在しなかったなので、入らなかった。

4-9. 日本から持参してよかったもの

折り畳み傘。(運よく登下校中に大雨が降ることはなかったが、私の場合雨の中徒歩で通学するので傘は必要だった。基本バリの人は傘をさす必要がなく、少しの移動でもレインコートを着てバイクで移動するので、傘を売っている店はアパートの近くになかったから。)現地のATMで引き落とせるクレジットカード。(ジンバランではクレジットカードで支払えるような店がなく現金主義だったから。) 持参すべきだったものとしては、蚊のかゆみ止めがある。虫よけスプレーは現地のものがいいが、刺された後のことを考えておらず、初めの方はかまれた跡が腫れてかゆかった。慣れると刺されても腫れたりすることがないので、現地にはかゆみ止めが無く、あったらいいなと思った。

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

フォーマルなスーツ。(お別れのセレモニーで着用したがそれほどフォーマルじゃなくてもよかったと思う。靴も革靴でなく普段のようなものでよかったし、ネクタイもいらなかった。ただ白いシャツと黒いパンツは必要だった。他の生徒はスーツの素材ではないものの黒いパンツをはいていた。)

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

現地の人是非常に好奇心が強くおしゃべりな人が多かった。また恋人の有無や好きなタイプといったプライベートなことも初対面でも話すのが一般的らしい。挨拶では握手を求められることが多かった。誘いを断るときも用事があるからという理由だと、何の用事がいつまであるの?と聞いてきて少し困った。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行

無し

その他 * 気分転換やストレス発散法など。

ビーチで地元のビールを飲みながら、ぼーっとしたり、マッサージに行ったり、クラブに行ったりしていた。

5. その他

5-1. 留学先大学について

ウダヤナ大学は静かなところにある大きな大学というものだ。UNUDというウヌッドという名で地元の人に知られている。主にジンバランキャンパスの話になってしまうと思う。学生数は多いと思うが、建物が離れているのであまり感じない。しかしバイクの数がとんでもなくある。学生はやはり向上心が強く、勉強や異文化に熱心である。GoBaliの先生達は本来の学部の先生が掛け持ちで担当しているので、あまり生徒に時間は取れないと感じた。メールを送っても返事がなかったこともあった。しかし基本的にとってもフレンドリーで助けてくれるので、心強い先生だった。

5-2. 留学希望者へのアドバイス

ポジティブな面で言うと、リゾート地、観光地ということで色々な観光地に行けたり、アジア人だけでなくヨーロッパ、オーストラリア人の方と触れ合えたり、バリ特有の文化を学べたりします。そういったことや場所を放課後、遊びまわれるので、体験重視で学べます。先生もバリを遊んで学んで来い、という感じです。ネガティブの面ではバイクが使えないので移動が不便です。また勉強面で講義が急になくなったりすることが多いのでモチベーションを維持するのが難しいと思います。

5-3. 留学を終えて

終えて大分時間がかかってしまったので、日本に帰ってきたときのフレッシュさは無くなってしまいました。が、まず思ったのは日本がどれだけ恵まれているかだ。日本は道路も完備され、ごみもそこらへんに落ちていないし、色んな参考書が日本語で読むことができる。バリにある大学でも、本は英語で書かれていたり、古いけど稼働中のパソコンは言語設定が英語だったりする。そういったことで勉強に対するやる気や向上心を見習うべきだと感じた。豊富に勉強できる環境だからこそ、より一層活用していきたい。自信がたった部分としては、海外で一人で生活することが出来たり、観光学のことを深く学べたりしたことだ。まだまだ目標に及ばず、未熟な点を実感する留学になったが、とてもいい経験をできたと思う。